# 東海第二原発
# 再稼働ストップ
## 福島の悲劇を繰り返さない
## 「廃炉」に！！

### 36年の老朽原発、非常に危険です

東海第二原発は、運転開始から36年経過した老朽原発であり、茨城を襲った地震津波で電源が喪失し、大事故寸前だった被災原発です。構造的にも重大な危険性を抱えています。

- 地震動を引きあげましたが、抜本的な地震対策ができていません。格納容器他主要設備は被災前のままです。
- 格納容器下部に水プールがあるため、落下核燃料で水蒸気爆発の恐れがあると指摘されています。
- 現在の可燃性ケーブルを難燃性ケーブルに交換できないため火災の危険があります。
- フィルターベントは、放射能を放出して生活圏を犠牲にします。
- 過酷事故対策を、最後は「人の手」に頼るのは無理です。

### 福島原発事故は東日本　壊滅の危機でした

福島原発事故から4年になる今でも、12万人余が故郷に帰れません。汚染水は止まらず、放射能が高く近づけず、原子炉の内部状況は誰にもわかりません。

現在でもこの酷さですが、事故発生当時は、東京を含めた250km圏の避難が想定され、東日本が壊滅するところでした。

（原子力委員長談）

それは、原発4号機の水素爆発で建屋上階の核燃料プール崩壊の危機、また2号機では、原子炉格納容器内に水が入らず内圧上昇で爆発の危機でした。このことは、公表された吉田所長の調書でも書かれています。

私たちが今あるのは、危機一髪で救われた偶然の産物といえます。

福島原発は、冷やし続けなければならず、今でも溜り続ける汚染水で危機は続いています。

また、原発はトイレなきマンションと言われています。使用済み核燃料は、処理できず、保管施設もなく、各原発に溜り続けます。このような原発を再稼働で子ども孫の世代に引き渡すことは出来ません。

日立市に断固反対の大看板
２４５号道大みか町泉が森入口にあります

# 東海第二原発　過酷事故想定の避難計画

# 日立市民１９万人の避難先は福島県？？？

福島県 JR 富岡駅（常磐線）

放射線量が高く復旧出来ません

県は昨年８月６日、東海第二原発の過酷事故を想定し、３０ｋｍ圏内１４市町村９６万人の広域避難計画（案）を発表しました。目的は、放射線の被ばくを避けるため、５ｋｍ圏内は一斉避難、５～３０ｋｍ圏内は自宅屋内避難で、放射線量により地域ごとに順次避難ということです。日立市民１９万人は、自家用車やバス等で各インターチェンジより常磐高速道（一部は３４９号道）に入り福島県に避難ということです。今年２月６日の県対策検討部会で、３月中に県として決定し、避難計画を市町村で本格的スタートとしています。

日立市でも現在避難計画が検討されています。４年前に大地震と津波を体験した市民として、本当に避難が可能でしょうか。常磐道で事故、渋滞、損壊が起きれば避難出来ません。その他様々な問題があります。

福島県に避難は、日立市１９万人と常陸太田市（５万人）、高萩市（３万人）でも計画されています。

## 原発を再稼働しないこと

日立市は福島と東海第二の原発に挟まれ、さらに太平洋と阿武隈高地に挟まれた街です。

誰が考えても無茶な避難計画です。机上の避難計画を作り、東海第二原発の再稼働の理由付けにされたらたまりません。

避難計画は実行されないことが一番良いことで、それは、東海第二原発を再稼働しないことに尽きます。

万が一、福島に避難できても、放射能で汚染されている日立市には帰還出来ません。

また、避難先は公共施設や体育館等で、避難人一人当たり２㎡（１ｍ×２ｍ）、畳１畳＋１０cmの面積で避難生活すること等も計画されています。これは福島の悲劇を私たちが繰り返すことです。

避難するのは市民です。本計画作成を、県・市のスケジュールで進めるのではなく、市民の意見や判断を十分聞き、市民が納得のいく形で進めることが求められます。

**東海第二原発**
**再稼働ストップ**
**日立市民の会**

ニュース　NO.2
2015 年 2 月

連絡先
荒川照明
〒316-0021
日立市台原町 2-10-10
電話　090-9845-7019

再稼働ストップのため
皆さんの入会を歓迎します